

（アドバイスの機能を使用した）
OEMからの障害原因対象のリストアとリカバリ操作

1. 起動時にエラーが発生すると、URL を入力した直後の OEM 画面には、エラー表示が
される（本来の OEM（Oracle Enterprise Manager）のメニューが表示されない）
2. リカバリの実行 ボタンをクリックする
3. ホスト資格証明の（OS）ユーザーとパスワードを入力して、続行 ボタンをクリック
する
4. データベースへのログインを行う
ユーザー : sys .
パスワード : ***** .
接続文字列 : 192.168.1.100:1521:orcl.rocal.domain ←固定表示
接続モード : SYSDBA | ▾ .
5. アドバイスとリカバリ ボタンをクリックする

アドバイスをを使ったリストアでは、障害が発生しているデータベースの対
象ファイルのみを、バックアップからリストアしたのち、リカバリを実行す
る。

アドバイスをしない場合は、データベースのすべてのファイルを、バ
ックアップからリストアするので、長時間になる

6. 【障害の表示および管理】画面が開きます
「障害の説明」列に表示されている内容を展開（▼）します。
アドバイス
☐ ▼データ障害
☒ ▶ SYSTEM 以外のデータファイルが見つかりません。
対象の障害の説明に☒を付けて、アドバイス ボタンをクリックします
7. 【手動アクション】画面が開きます
リストアする内容が説明表示されるので、内容を確認して
アドバイスの続行 ボタンをクリックします

8. 【リカバリ・アドバイス】画面が開きます

RMAN スクリプトの内容が表示されるので、内容を確認して

続行 ボタンをクリックします

9. 【確認】画面が開きます

内容が表示されるので、内容を確認して

リカバリ・ジョブの発行 ボタンをクリックして、リカバリを開始します

10. データベースのオープン

リカバリ処理のメッセージが表示される

処理が終了したら、

データベースをオープン ボタンをクリックし、オラクルが OPEN させます